

# イオンモール多摩平の森

AEON MALL Tamadaira no Mori

No. 03-045-2016作成

新築  
物販

発注者	イオンモール株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携				
施工	株式会社 大林組	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他				

## いきもの共生事業所認証ショッピングセンター

2015年11月多摩平団地跡地にイオンモール多摩平の森ショッピングセンターが開業した。

計画地は、多摩平丘陵の緑と浅川の水辺を日野台地につなぐ生物ネットワークの一部に位置し、周辺環境との調和や、より積極的な生態系ネットワークの創出などの点で、ショッピングセンターの新しいあり方を提案する建物として計画した。

ショッピングセンターにおける生物多様性に貢献する環境づくり、周辺環境との調和による生態系ネットワークの創出、動物の生息場所や移動経路確保等の実現に向けた計画への取組み姿勢等に対して高い評価を受け、いきもの共生事業所認証を受賞した。

認証において、特に高い評価のポイントは、次のとおり。

- 既存の高木（10m以上）を保存または移植により利用し、階層構造のある緑地を形成
- 水辺空間は緩傾斜護岸で抽水植物の植栽、花や実のなる樹種の植栽など、いきものへの配慮を実施
- 雨水浸透ますや浸透性舗装など水循環に配慮
- 特定・要注意外来種に対するマニュアルも独自に整備
- ショッピングセンターの来客に対し、緑地を利用した環境プログラムを実施している

### 生物多様性に貢献する環境づくり

敷地面積の約25%に当たる、約7,800㎡（地上部約4,300㎡、屋上約3,500㎡）の緑化を実現し、イオンふるさとの森を含む森の小道部分に10m以上の既存樹木保全による高木層・低木層・草本層が存在する立体的な緑地を約1,650㎡のまとまりのある緑地として計画した。また、屋上緑化の一部は、草地タイプのビオトープとして、高茎草地・低茎草地を混在する計画とした他、生物が利用できるものとして緩傾斜護岸に抽水植物を配した水面を設置した。



外観写真（南西から）



内観写真（陽だまりのアトリウム）



水景



植生調査風景

### 周辺環境との調和

多摩平団地の歴史や、周辺地域との緑のネットワーク（多摩平第一公園・多摩平の森・黒川清流公園）について調査を行い、周辺鎮守の森調査（八王子市 白山神社）を行った。周辺環境及び植生の調査結果を検討後、多摩平の森やけやき並木等の質の高い緑を保全するため、けやきを中心とした既存樹木49本を保全・移植する事で、多摩平の森を継承し再生する計画とした。

建物側では、階ごとにセットバックし、6階建の建物ボリュームによる沿道景観へのインパクト軽減を図りつつ、その屋上や壁面を緑化したステップガーデンとした事で、建物建設により分断される緑地をつなぎ、周辺環境との調和を図った。

### 動物の生息場所や移動経路に対する配慮

- イオンの森、屋上緑地に、花や実のなる植物を植える事で鳥類や昆虫などの食物がとれる場所を提供する計画とした
- 「森の小路」に地上性の小動物の隠れ家となるような隙間の多い構造物として「トカゲハウス」や、鳥類の営巣場所として巣箱を設置する計画とした
- 屋上緑地のビオトープにおいて、水生生物の隠れ家や産卵場所の提供のため、水辺に水生植物を配置する計画とした

### 水循環への配慮（雨水の有効利用）

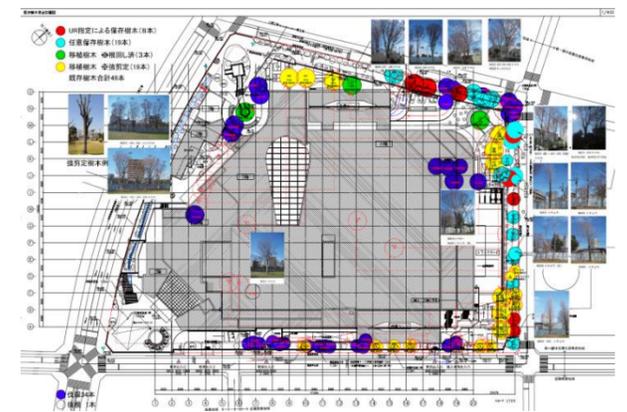
- 雨水浸透柵・雨の庭モデルガーデン及び舗装面の一部を浸透性舗装とする事で、屋上からの雨水の地下浸透を可能にした
- 屋上ビオトープの池では、隣接する建物部分に降った雨水を利用する計画とした

### 評価

上記の取組みが評価され、いきもの共生事業所認証を受けた施設の中でも普及啓発や生物多様性の主流化への貢献度が高い施設を対象として第1回ABINC賞にて、都市SC版カテゴリー中の特別賞を受賞した。



既存樹木写真（森の小路）



既存樹木保全計画



イオンふるさとの森植樹



屋上駐車場プランター緑化



屋上ビオトープ



雨の庭モデルガーデン



ビオトープの池



巣箱



トカゲハウス



屋上四季の森ガーデン

設計担当者

建築：神道浩、三宅賢一、中野浩伸、荒川公典、瀧美智英 構造：榎本浩之、花村浩嗣 設備：大代誠、原田健司、藤井直哉、柳内伸介、間瀬亮平、上野史弥

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（「イオンふるさとの森」手法による外構緑化、既存樹木の保存及び地域の植生調査による植樹樹木の選定、巣箱・トカゲハウス・ビオトープ設置による野生小動物の生息域の確保）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（日野煉瓦・日野用水をモチーフとした外構計画による歴史性の継承）
- LR1. 2. 自然エネルギー利用（トップライト・遮光幕を利用した自然採光及び制御）
- LR2. 1. 水資源保護（「雨の庭」手法による水資源の浄化）

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	PAL削減	Aランク	
竣工年	物販店 2%	BEE=1.9	
敷地面積	飲食店 4%	2010年度版	
延床面積	集会所 9%	第三者認証	
構造	ERR (CASBEE準拠)	37%	
階数	LCCO <sub>2</sub> 削減	29%	